

'23春闘ニュース

発行元：神奈川県労働組合総連合 - 横浜市中区桜木町3-9横浜平和と労働会館 6F TEL045-212-5855 / FAX045-212-5745

川崎国民春闘共闘会議が 名称変更総会・討論集会を開催

23国民春闘にむけて、川崎国民春闘共闘会議は12月11日に名称変更総会・討論交流集会をオンライン会議で開催しました。全体で18人が参加しました。

はじめに、『2023年川崎国民春闘共闘会議』への名称変更と、役員・会計が提案、承認されました。

県春闘共闘の山田事務局長から、23国民春闘に関わる情勢や労働者の要求、神奈川での春闘の具体化について報告があり、続いて川崎春闘共闘の吉根事務局長から、春闘方針の一次案が提案されました。

インボイス中止を重点に

討論交流では、13人から発言がありました。JMITU川崎支部からは、「地域で見える未組織宣伝行動をしよう」との提案などの発言がありました。

川崎医療生協労組や関東労災病院支部、福祉保育労・緑陽苑分会からは、秋闘の成果や職場のコロナ感染下での厳しい状況(職員の罹患が相次ぎ現場がひっ迫、病床が満床状態、患者・利用者の受け入れができず減収になり賃金にも影響しているなど)の報告、マイナ保険証に関するとりくみや正規と非正規との格差などについて発言がありました。

神奈川土建の各支部からは、公契約条例やインボイスの問題について発言がありました。特にインボイスについては「建設だけの問題ではない。中止を求めるとりくみを重点的にしてほしい」との要望がありました。

「みんなが幸せになろう」という大きな要求を

JMITU通信労組のからは、JOB型雇用の問題と、大企業の内部留保を吐き出させて労働者に還元するとりくみが必要との発言がありました。建交労県南支部からは、トラック労働者がおかれている厳しい実態の報告と、過労死規制で労働時間が減るなかでどう賃上げを実現するか、中小業者との一致点での協力協同や未組織労働者の組織化などについて発言がありました。

次ページに続く、、

ユーコープ労組の木下さんから秋闘の成果と春闘にむけてのとりくみの報告、来年3月の最賃シンポや6月の非正規全国集会への参加の呼びかけなどの発言がありました。全川崎地域労組からは、「今が成果主義賃金をつぶす好機」、「深刻な状況の相談者ひとりひとりを組織が守っていくことが必要」と強調し、「一人も取り残さない、みんなが幸せになろうという大きな要求の春闘方針を出してほしい」との発言がありました。



前議長の菅野さんからは、福田市長のもとで川崎市政がさまざまな社会保障制度のとりやめを表明しており、川崎の地域春闘で市民の命や暮らしを守るという共同したとりくみや、市議会や県議会など地方選挙で私たちの命や健康・暮らしを守る人を選ぶことが大事との発言がありました。

最後に、川崎労連児玉議長が「それぞれのとりくみを応援しあいながら、川崎の春闘を皆さんとともに頑張っていきたいと」あいさつし、閉会しました。

県央春闘共闘会議 総会・学習会 開催

厚木市や周辺自治体を活動範囲とする県央春闘共闘会議が、12月16日に総会・学習会を開催しました。

新組合が加盟申請

総会の冒頭に、労働相談から組合員が増え単組を結成した組合が、厚木地区労に加盟申請を行い、新委員長があいさつする嬉しい場面がありました。

最初に総会を行い、23春闘をめぐる情勢を確認したうえで、県央地域での春闘の具体的なとりくみや、役員体制、財政などが提案され、参加者によって確認されました。また、厚木市では市長選挙が2月に行われることから、候補者を擁立してとりくむことも提起されました。

学習会では、県春闘共闘から情勢の特徴や、組合員・未組織も含めた労働者の要求・願いなどについて資料も使った話しがされました。そして、県全体として総対話と統一行動への結集を重視して、地域でも春闘を闘っていくことが提起されました。